

会報

No. 32 (第 1723 回) 2026 年 5 月 20 日 (水) 12:30~

第 2820 地区 瀬戸隆海ガバナー 地区行動指針

「時は今 ところ足元 そのことに 打ち込む命 永久の御命」

2025-2026 猪股真純会長 年度スローガン 「踏み出そう! 夢に向かって」

本日のプログラム : 外部卓話 J-PARC センター 小林 隆センター長
「J-PARC で探る宇宙と物質の起源」

5 月 13 日 例会報告(第 1722 回)

◆ 幹事報告

報告者: 鶴田哲男幹事

・ 本日の理事会において、下記の3件について審議しました。

1. クラブ活性化セミナーについて

対象者: 次年度クラブ会長・会員増強委員長

日 時: 5月24日(日)10:00~

会 場: ダイヤモンドホール

登録料: 1 クラブ5000円

申込締切り: 5月15日

2. 会長幹事慰労会の送迎バスについて

ホテルの送迎バスが利用できない場合は、ジャンボタクシー等を手配する。

3. 東海まつりについて

令和8年8月8日(土)開催する東海まつり花火大会に、例年通り協賛する。

・ ガバナー事務所より、地区大会記念ゴルフ大会のお礼および参加者の写真が届きました。



◆ 今月のお祝い

報告者：親睦活動委員会 石井秀明委員長



おめでとうございます

会員誕生日：猪股 真純会長、鈴木 正人会員、飯塚 長会員

ご夫人誕生日：大牟田 弘文会員、鶴田 哲男会員、浅川 清司会員、高橋 昭会員

◆ 出席報告

報告者：出席委員会 中野修生委員長

2026年5月13日 例会

会員数	出席免除者数	対象会員数	出席者	欠席者	出席率 (%)
34	2 内出席 1名	33	22 (1名 ZOOM)	11	66.7

出席免除者(敬称略): 下線は例会 出席

高橋 昭、瀬谷利雄

◆ ニコニコボックス

報告者：ニコニコボックス委員会 大牟田弘文委員長

浅川 清司	妻の誕生日祝い、ありがとうございます。妻も 70 歳になり、もう少しがんばってもらってもいいです。
猪股 真純	三橋先生、本日の卓話、大変楽しみにしております。よろしくお願ひいたします。本日の茨城新聞 20 面、ロータリー情報館に、東海那珂ロータリークラブの奉仕活動が掲載されました。誕生日プレゼント、ありがとうございます。
海野 宏幸	三橋先生、卓話、宜しくお願ひします。
大牟田弘文	5 月 13 日は「メイストームデー(5 月の嵐の日)」です。バレンタインデーから 88 日目の霜の終わりを告げる「別れ霜」にちなんで、恋人に別れを切り出す最適な日だそうです。
佐藤 広道	三橋先生、本日の卓話、よろしくお願ひ致します。
高橋 昭	妻の誕生日祝い、ありがとうございました。
清水 繁	誕生日祝い、ありがとうございます。
鶴田 哲男	三橋先生、卓話、ありがとうございます。
中村 修生	三橋先生、本日は、よろしくお願ひいたします。
藤田 明英	三橋先生、お忙しい中、ありがとうございます。宜しくお願ひ致します。
橋本 壽郎	幹事さん、ご苦労様です。
目黒 伸也	三橋先生、本日は、よろしくお願ひします。

◆ 委員会報告

報告者: クラブ会報・公共イメージ委員会 桐嶋健二委員長

<ロータリーの友 5月号概要紹介>



<ロータリーの友 5月号概要紹介>

5月は「青少年奉仕月間」です。

RI 会長メッセージでは、ケニアの若いショキ・ワフラさんが経験したローターアクト E クラブ設立の物語を通して青少年奉仕月間の重要性について述べています。そして、青少年奉仕月間に当たり、全てのロータリークラブに、青少年プログラム(ローターアクトやロータリー青少年交換など)を通じて新会員とベテラン会員双方の関わりをどのように深められるか、改めて考えていただきたいと呼び掛けています。

今月の特集記事は「日本・アルゼンチン 青少年の架け橋が再開」と「希望を育む 茨城からウクライナへ変わりゆく支援の形」です。前者の記事は日本の第 2650 地区(福井・京都・奈良・滋賀)がアルゼンチンの第 4851 地区と青少年交換事業を数十年ぶりに再会させることになった経緯が記されています。後者の記事は当クラブが所属する第 2820 地区の 2021-22 年度ガバナー新井和雄氏によるもので、以前ウクライナの方が当クラブを訪問されたこともあり、馴染みのある内容になっています。

また、SPEECH の記事はつくば大学生命環境系石井敦教授による「上野英三郎博士の偉業」です。上野英三郎博士は「農業土木学」の創始者で忠犬ハチ公の飼い主です。この記事では上野博士の偉大な功績について紹介されています。

いずれの記事も興味深い内容になっていますので是非ご一読ください。

◆ 外部卓話「放射線の人体への影響」 ひたちなか総合病院 三橋紀夫先生

ひたちなか総合病院 三橋 紀夫先生をお招きして、「放射線の人体への影響」をテーマに講演いただきました。

放射線防護の 3 原則である

- ① 時間の原則(Time)
放射線にさらされる時間をできるだけ短くする。
- ② 距離の原則(Distance)
放射線源からできるだけ離れる。
- ③ 遮へいの原則(Shielding)
鉛板やコンクリートなどの遮へい材を用いて放射線を遮る。



【三橋 紀夫センター長】

をご紹介いただき、さらにテーマである人体への影響についてお話をいただきました。

放射線の人体への影響とは、被ばく後の人体の状況を示すものですが、放射線被ばくの特徴として

- ① 無自覚性：被ばくしたことを感知できない
- ② 症状の遅発性：被ばくした線量に拘らず長期間を経て発症する可能性がある
- ③ 症状の被特異性：初期段階では被ばく特有の症状と判断できない

が挙げられ、初期段階での被ばくの有無の判断は難しいところがあるとのことでした。

これこそが、放射線の怖さと捉えられるところではありますが、「確率的影響と放射線量」に関する研究では、多くの研究者が100mSv以下の放射線量であれば、遺伝子的影響や発がんリスクとの直接的な因果関係がないと報告していることについて教えていただき、人体への影響度について知識を得ました。

また、放射線の特徴を活かした医療関係の効能により、日本が特にCT撮影をよく使うことによる放射線被ばくが多い傾向にあり、環境放射線の実態においては大きな割合を占めることも教えていただき、普段の生活での注意事項として学ぶことができました。

放射線に関する知識を習得する機会はなかなかありませんが、身近な例を挙げて説明いただいたお陰で、放射線の人体への影響について学ぶ大変有意義な卓話となりました。

ありがとうございました。

次回例会 5月27日(水)18:30～

次期クラブ協議会(1)：地区協議会報告

例会を欠席する時は、必ず前日12:00までに事務局まで連絡のこと

【クラブ会報・公共イメージ委員会】

委員長 桐嶋健二／副委員長 石井秀明／委員 大牟田弘文 佐々木良一 原嶋俊彦